



令和5年度 幼児教育研修（資質向上 松山ゼミ 第3回）

「見直そう 計画と記録」

日時：令和5年10月24日（火）15:00～17:00

会場：上沼田保育園

講師：和泉短期大学 教授 松山 洋平 氏

チャレンジしたことを持ち寄ってゼミしよう！

計画や記録に取り組んでみて、ここが大事だと思ったポイントは？



可視化すること。写真を使うと相手に説明しやすく、伝わりやすくなった。



保育WEBに取り組んでみて、月案のねらいがピンポイントになった。



一人で書くと限界があるが、クラスで書くと新たな発見がある。



見やすさ。

保育の計画及び評価は・・・

- ・全体的な計画の作成
- ・指導計画の作成（長期的・短期的）
 - ➡具体的なねらい及び内容を設定
 - 適切な環境を構成

↓
必要な援助を行う
保育の過程を記録し、保育内容の見直し、改善
（保育所保育指針 第1章総則 抜粋）

とあります。



記録や計画に決まった様式はありません。

記録や計画の様式、項目は、「園としてどのようなことに重点を置いて保育を捉えていくか」という評価の方向性について共通理解をつくるのが大事。

「しなければならない」書類から「伝えたい」書類へ

- 見やすさ・・・誰が見ても分かるように。
 - ➡写真は出来事を見ようとします。
- 子どもの姿をありのまま、自分の言葉で書く。
- 人から意見をもらう。
 - ➡心を開いた保育の語り合いが必要。

保育の質は「対話」で決まる

研修生のより報告書より

今までは文字だらけの月案が当たり前だと思っていたが、いろいろな書き方がありその中で変化させて良いことを学んだ。計画や記録はただ書くだけではなく、職員間で共有することが大事である。それをみんなで話すことで様々な気づきにつながっていくことを学んだ。

グループで様々な記録や計画のやり方を共有して見て、①写真を使って可視化することで他者にも分かりやすい計画や記録になること。②一人ではなく様々な職員と共有していくことで中身が広がっていき、新しい発見や見方につながる。この2点が、どのやり方にも共通していた。「しなければならない」書類から「伝えたい」書類へという内容が印象に残っていて、見方を変えることで何を伝えたいか、どこに着目すればよいのかという視点も変化していくのだと気付いた。